

氏名	中 川 和 彦
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2146号
学位授与の日付	平成13年3月25日
学位授与の要件	医学研究科外科系外科学(一)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Analysis of the Immune Status in the Recipients with Long-Term Well-Functioning Kidneys Allografts (腎移植長期生着症例における免疫状態の解析)
論文審査委員	教授 中山 馨一 教授 清水 信義 教授 公文 裕巳

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

移植腎長期生着に関する免疫学的機構を検討するために13人の生体腎移植患者から得られた末梢血リンパ球(PBL)を用いて Mixed lymphocyte reaction(MLR) assay、Cell-mediated lympholysis(CML) assay、Mixed lymphocyte culture(MLC)細胞の IL-2 産生と IL-2 レセプター(IL-2R)発現を検討した。また IL-2R に対するモノクローナル抗体(MoAb)を使用し、MLR抑制効果についても併せ検討した。ドナーおよび3rd partyのPBLによる Stimulation index (SI) は、移植前に比べ移植後に増強されていたが、cytotoxic T cell(CTL)活性は移植後有意に低下していた。また、IL-2 を添加しても CTL による細胞障害活性は増強されなかった。ドナー細胞刺激による IL-2 産生は 3rd party 刺激に比べ低値であったが、IL-2R の発現については、いずれの刺激にても同等で差がなかった。IL-2R に対する MoAb は、ドナー、3rd party による MLR を同等に抑制した。これらの結果より移植腎長期生着患者においては、ドナー特異的な CTL の不応性が成立しており、その機序は clonal anergy によるものと考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、移植腎長期生着症例13例の末梢血リンパ球を用いてリンパ球混合培養、細胞障害性Tリンパ球(CTL)、インターロイキン2の産生とそのレセプター解析を行い、宿主の免疫状態を解析したものである。この結果、移植腎長期生着患者では、ドナー特異的なCTLの反応性の低下が認められることを明らかにした。この知見は、移植腎長期生着をもたらす免疫寛容の機構を知る上で価値ある業績であると認める。よって本研究者は、博士(医学)の学位を得る資格があると認める。